

## 式 辞

本日ここに、学士、修士の学位記並びに修了証書を授与された皆さん、別科日本語研修課程の修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

長崎総合科学大学での勉学の結果として、今日の授与式を迎えられたことをご来賓の田頭理事長、ご列席の理事、関係部局長を始めとする長崎総合科学大学の教職員一同および在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

また、皆さんの勉学を見守り、励まし、物心両面から支えてこられたご家族の方々をはじめとする、ご支援を賜りました皆様方に対して、心より敬意を表します。皆様のご支援により、今日の授与式を迎えた学生の晴れやかな姿を是非とも目に焼き付けていただければと存じます。

皆さんは、新型コロナウイルスの流行というこれまで経験したことのない極めて異常かつ困難で、揺らぐ教育環境の中で、学生時代を送られました。そうした厳しい中で、学びと研究を懸命にやりとげ、今日の日を迎えられました。皆さんの強い意思と努力に最大の敬意を表します。

学部を卒業し、社会に旅立つ皆さんは、本学で習得した工学や情報の知識と考え方を基礎として、新たな環境で一步一步前進してください。

一方、大学院に進学される皆さんは、新たな課題の洗い出しや課題解決を重ね、創造的な修士論文の完成を目指してください。修士を修了される皆さんは、即戦力として社会から求められている人材らしく、習得した実験力、解析力、プログラム力を存分に発揮して、技術を今後も極めて下さい。

さて、本学には、教育の根幹をなす「建学の精神」と「大学の理念」が掲げられています。「建学の精神」は、「自律自彊（じりつじきょう）」、「実学実践（じつがくじっせん）」、「創意創新（そいういそうしん）」、「宇内和親（うだいわしん）」の四つの四字成語にまとめられています。「自律自彊」とは、自ら努力し、励んで、

自分自身を高め、自己を確立すること、「実学実践」とは、地に足をつけ、社会の役に立つ技術を開発・実行できる実践的な人材、「創意革新」とは、常に先進的で独創的な技術を開発して、社会の発展に寄与する新しいものを作り出す開発力を有する人材、「宇内和親」とは、常に物事を世界的視野で考え、人類の和平を技術への愛を通して育む人材になることです。「大学の理念」は、「人類愛の存するところ、技術への愛もまた存する」と掲げられています。これは、古代ギリシャの先哲ヒポクラテスの言葉です。このような建学の精神と理念に基づいて作られたカリキュラムを通じた日々の学びの中で、皆さんは長崎総合科学大学で学生生活を過ごしてこられました。その学びの中で皆さんは何を得てこられたでしょうか。幅広い教養や専門分野の知識、それらを得る過程での論理的思考、実証に基づく帰納的思考、仮説に基づく演繹的思考でしょうか。モノを手で扱って得られた実験力、数式あるいはシミュレーションを駆使した解析力、プログラムの作成能力でしょうか。

そのどれも皆さんは経験してこられ、そして、得られた知識に裏打ちされた「知力」という力を持っておられます。

しかし、この「知力」という力は努力を怠ると次第に萎んで行くという困った特性を持っています。皆さんが在学中にも、生成AIやデータサイエンス、自動運転、カーボンニュートラルといった新しい技術が続々と出てきました。今後も、皆さん方の長い技術者人生の中では、様々な技術が生まれ、そして廃れて行くことでしょう。

一方で、その廃れたはずの技術を参考にして新たな技術が生まれたり、新たな応用が見つかったりすることがあります。

人間は、学習型のAIとは異なり、新しいものを創造できるとよく言われます。それでは、経験の無いところから、その経験を整理して知識としていない、知力が存在しない混沌とした中から、本当に新しい技術は突然と現れるのでしょうか。

私は脳科学者ではないので理論的な裏打ちからの発言は出来ませんが、学者としての経験から、教育者としての経験からは、そういう確率は極めてゼロに近いと断言できます。つまり、日々新しい技術が生まれています、それらは突然と生まれたモノではなく、古い技術や今使っている技術を学んだ技術者が、それら

を経験して真に理解したとき、そしてそれに満足しなかつたときに、新しい技術が生まれると私は思います。既存の技術から余り離れていないような技術は改善と呼ばれ、考え方を変えて提案されたとき、それは新技術や発明と呼ばれるのではないのでしょうか。実は、皆さん方が講義で用いたテキストは、勉強をするための教科書や問題集であると共に歴史書でもあるのです。テキストは幾つかの章に分かれています。それは年代毎に起きた技術の革新を整理したものであるのです。

私の専門は電子工学で、それに使う電気回路の教科書では、最初に、十九世紀の直流回路の定義が出てきます。その次に、二十世紀初頭の交流理論を学びます。二十世紀後半になるとトランジスタが発明され、それは電子回路という新しい学問に引き継がれ、大学ではその名の「電子回路」という名前の講義を学びます。

そして、その電子回路が集積された論理回路、デジタル回路、コンピュータ、プログラム作成のためのアルゴリズムというような技術に引き継がれ、その度に、その名前の講義が開講されています。勿論、消えて行く講義もあります。

このように、工学や情報と言った学問自体が技術の革新によって変わってきているのです。進歩と廃棄を常に行っているのです。そういう学問の中で育ってきた皆さんは、今後も変革を恐れることなく、むしろ果敢に変革に挑戦して、新たな技術を獲得し、「ひとつ先の風景」を社会全体の皆さんに見せていただきたいと願います。

大学院に進学する皆さんにとっては大学院修了後になりますので、今しばらく、即戦力になるために、教授陣の指導の下、技術力を磨いていただきたいと思います。皆さんには、国内外の学会に参加したり、企業の方と討論や共同研究をしたりという大学院でしか得られない素晴らしいチャンスが待ち構えています。学生のうちにこのような経験が積み、最新技術を切り開いている教授陣や企業の開発者と時間を共にすることは一生の宝となることとでしょう。

よく大学で習ったことは社会では役に立たないとか言われることがあります。先日もご自身のことをそう言われていた社長さんが、新入社員には大学での知識を会社での業務に即繋げること

を求めておられました。即戦力が欲しいとの思いからでしょう。しかし、会社での業務にすぐに使える手段を大学では教えていません。それは専門学校の役割です。

大学では、幅広い教養に裏打ちされた学術的・理論的な学問知識を学び、その知力をもって社会に臨み、仕事に必要なそれまでに得られた知識を整理し直し、さらに必要な知識を自ら継ぎ足せる力をもって、大学と会社での活動が断絶することなく、継続して活躍でき、ついには新たな技術を開発出来る力を教えています。

皆さんに先ほどから「知力」という言葉を使っていますが、それは知識を得たと言うことだけではなく、それを元に今後の仕事を発展できる力と言うことを再度確認しておきたいと思います。

最後に、皆さんが長崎総合科学大学で学んだことを宝に、自信を持って、未来を切り拓き、人間力をさらに磨き、人生が豊かでありいきいきとした魅力あふれるものであることを祈念して、私の式辞と致します。

令和六年三月十九日

長崎総合科学大学

学長 黒川 不二雄